

「National Database から集計された医療提供状況、患者受療動向データの活用について」（抜粋）

東北大学 医学系研究科 公共健康医学講座
医療管理学分野 藤森研司

○対象データ

平成 26 年 5 月請求分から平成 27 年 5 月請求分の 13 か月データから、平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月までの診療分を抽出。

対象としたレセプトは保険請求分であり、生活保護等の公費単独のデータ、あるいは自賠責、労災等、医科保険の対象でないものは含まない。

対象としたレセプトは、医科、DPC、調剤であるが、電子レセプトのみ。

○SCR (Standardized Claim data Ratio)

その地域で発生したレセプト数を、全国の性・年齢人口構成で補正し、標準化したものである。標準化した上で、全国平均のレセプト件数の出方であれば 100、少なければ 100 以下、多ければ 100 以上となる。

「医療提供状況」は医療機関所在地ベースで作成されており、他地域からの患者流入出は勘案していない。

記載されているレセプト件数は NDB のガイドラインに準拠しており、市区町村の人口規模によってマスクされる件数が異なることに留意。セルの空白は、ガイドラインに従ってマスクされた結果である。レセプト件数によるマスクは新しいガイドラインに従い、人口 2,000 人未満の村は全てマスク、人口 2,000 人から 25,000 未満は 20 未満の数値がマスク、人口 25,000 人以上は 10 未満がマスクである。人口 2,000 人未満の村では一切の数値が示されないことになる。